

伐採及び集材に係るチェックリスト

年 月 日

伐採する者: \_\_\_\_\_

森林の所在場所: \_\_\_\_\_

チェック項目	確認
<p><b>(1) 伐採の方法及び区域の設定</b></p> <p>① 森林所有者に対して再生林の必要性を説明しその実施に向けた意識向上を図るとともに、伐採と造林の一貫作業の導入など作業効率の向上に努める。</p> <p>② 伐採する区域の明確化を行う。</p> <p>③ 林地や生物多様性の保全に配慮し、保護樹帯や保残木を設定するとともに、それらに架線や集材路を通過させる場合は影響範囲を最小限にする。</p> <p>④ 伐採が大面積(約20ha以上)にならないよう、伐採区域の複数分割、帯状・群状伐採などにより、伐採を空間的・時間的に分散させる。</p>	<input type="checkbox"/>
<p><b>(2) 林地保全に配慮した集材路<sup>注1)</sup>・土壌の配置・作設</b></p> <p>① 集材路・土場の作設によって土砂の流出・崩壊が発生しないよう集材方法や使用機械を選定し、集材路・土場の配置を必要最小限にする。</p> <p>② 地形等の条件に応じて、路網と架線を適切に組み合わせる。また、集材路の作設等により林地の崩壊を引き起こすおそれがある場合等の伐採・搬出は、架線集材とする。</p> <p>③ 土場の作設等で盛土などを行う場合は法面に崩壊防止の対策を講じる。</p> <p>④ 土質・地形を考慮し、現場の状況に応じた集材路・土場の配置を計画する。</p> <p>⑤ 集材路の線形は、極力等高線に合わせる。</p> <p>⑥ ヘアピンカーブは地盤の安定した箇所に設置する。</p> <p>⑦ 集材路・土場は溪流から距離をおいて配置する。やむを得ず溪流付近に設置する場合は、土砂が溪流に流出しない工夫をする。</p> <p>⑧ 集材路は、沢筋を横断する箇所が少なくなるよう配置する。</p> <p>⑨ 伐採区域のみで集材路の適切な配置が配置が困難な場合には、隣接地を経由することとし、隣接地の森林所有者等と調整を行う。</p> <p>⑩ 森林整備や木材搬出のために継続的に用いる道を作設する場合には、森林作業道作設指針<sup>注2)</sup>を参考に作設する。</p> <p>⑪ 幅員が3mを超える集材路又は森林作業道を作設する場合は、その面積が1haを超えていない。</p> <p>注1) 集材路: 立木の伐採、搬出等のために林業機械等が一時的に走行することを目的として作設する仮施設(道)(森林整備のため継続的に用いる道は森林作業道として集材路と区別する)。  注2) 「森林作業道作設指針の制定について」(平成22年11月17日付け森整整第656号林野庁長官通知)</p>	<input type="checkbox"/>
<p><b>(3) 人家、道路、取水口周辺等での配慮</b></p> <p>① 集材路・土場の作設時には保全対象の上方に安全施設等を設置する。特に、人家、道路等の重要な保全対象が下にある場合には、その直上では集材路・土場を作設しない。</p> <p>② 水道の取水口の周辺では集材路・土場を作設しない。</p>	<input type="checkbox"/>

<p><b>(4) 生物多様性と景観への配慮</b></p> <p>①希少な野生動物の生息・生育を知った場合には、線形及び作業の時期の変更等の対策を講じる。</p> <p>②集落、道路等からの景観に配慮した集材路・土場の配置をする。</p>	<input type="checkbox"/>
<p><b>(5) 切土・盛土</b></p> <p>①集材路の幅及び土場の広さは作業の安全を確保できる必要最小限とする。</p> <p>②切土高を極力低く抑える。盛土はしっかり絞め固め、必要な場合には、丸太組み工等を活用する。</p> <p>③残土が発生した場合には、溪流沿いを避け、地盤が安定した個所に置き、必要に応じて丸太組み工等の対策を講じる。</p>	<input type="checkbox"/>
<p><b>(6) 路面の保護と排水の処理</b></p> <p>①雨水による路面の洗堀・崩壊を避けるための対策を講じる。</p> <p>②路面の排水は、浸食されにくい箇所でごまめに行う。崩れやすい盛土部分の崩壊等を避けるための対策を講じる。</p>	<input type="checkbox"/>
<p><b>(7) 溪流横断個所の処理</b></p> <p>①溪流横断個所においては、流水が道路等に溢れ出ないように施工、維持管理する。暗渠を用いる場合は、詰まりが生じないような対策を講じる。洗い越しとする場合は、横断個所で集材路の路面を一段下げる。</p> <p>②洗い越しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。</p>	<input type="checkbox"/>
<p><b>(8) 作業実行上の配慮</b></p> <p>①集材路・土場は、作業が終了して次の作業まで一定期間使用しない場合には、土砂の流出を防止するため、路面に枝条を敷設する等の設置を講じる。</p> <p>②降雨等により路盤が多量の水分を帯びている状態では通行しない。通行する場合には、丸太等の敷設などになどにより、路面のわだち掘れ等を防止する。</p> <p>③伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意を払う。</p> <p>④伐採後の植栽作業や天然更新による稚樹の生育を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。</p>	<input type="checkbox"/>
<p><b>(9) 事業実施後の整理</b></p> <p>①枝条等は木質バイオマス資材等への有効利用を検討するとともに、枝条等を伐採現場に残す場合は、溪流に流れ出たり、林地崩壊を誘発したりすることがないように、適切な場所に整理する。</p> <p>②集材路・土場は山地崩壊の原因とならないよう、溝切り等の排水処理や植栽等による植生の回復など適切な処理を行う。</p> <p>③伐採・搬出に使用した資材・燃料等は確実に整理、撤去する。</p> <p>④伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の現況を造林の権限を有する森林所有者等と確認し、必要な措置を講じる。</p>	<input type="checkbox"/>